

26

ポンペの講義録，外科手術篇の原典は ディーフェンバッハの『外科手術学』である

相川 忠臣

長崎大学医学部 良順会館150周年ミュージアム

国会図書館所蔵のポンペ・ファン・メーデルフォールトの講義録（松本良順筆記），外科手術篇（朋氏外科手術口訣）は4巻からなる。その内容をドイツのディーフェンバッハ J. F. Dieffenbach. 著 *Die Operative Chirurgie* 2巻（1845-1848）と比較すると，よい一致を示した。この蘭訳書（1846-1850）は，講義録の中で詳細を知るには実氏（ディーフェンバッハ）の著書を見るようにと指示しているので，出島に常備されていたと思われる。ディーフェンバッハは傷んだ鼻，兔唇，口蓋披裂などの造形外科のパイオニアである。ベルリン大学の教授を務めた。眼筋切除による斜視矯正で一世を風靡した。斜視眼手術はストロマイエルと共に推進した。ポンペは佐藤尚中らにディーフェンバッハとストロマイエルを推奨した。尚中はポンペから贈られたストロマイエルの外科書を翻訳，『外科医法』として出版した。ストロマイエルはその外科書をディーフェンバッハに献呈している。痛みの激しい乳癌手術に対し，原著ではエーテルのみ称用しているが，ポンペはエーテルだけでなく，新知見のホ（ク）ロールホルムを加えて最称用している。

原著1巻は外科手術総論であり，造形外科，整形外科手術などを含む。原著2巻は外科手術各論であり，頭部，頸部，胸部，下腹部，生殖器，四肢切断の順である。

外科手術篇1及び2巻は外科手術総論，初めに手術史があり，その内容は原著とよく一致する。ポンペは原著の章の番号に従って順序良く講義している。1巻は1-9章で1章省略。内容：異物の排除，合縫術，烙傷法，蟻針施用，刺絡，動脈刺，静脈注射法，動脈結締法。2巻は10-27章で6章省略。内容：動脈捻轉，動脈病（瘤）手術，静脈病（瘤）・遠隔の静脈枝，膿瘡手術，淋巴腫，開創術，瘻根治術，髪細管擴張，腫瘤手術総論，臍瘤手術，神経手術，菌（ポリープ）手術。以上，簡略に述べられているが，外科手術総論の項目に省略は少ない。輸血，種痘が省略されている。

3巻は28-93章で40章省略。内容：造形手術，造鼻法，兔唇手術，エピカンティス（内眼角贅皮）手術，兔眼手術，コロボマ手術・眼瞼破裂，上瞼下垂・垂廉眼手術，眼瞼内（反）手術，眼瞼翻（外反）手術，眼胞至小手術，筋皮膜切断術（整形外科手術）。腹部内臓や生殖器の造形外科，植皮は省略されている。ついで原著2巻の内容である外科手術各論が頭部から始まる。穿骨術，上顎断除法，下顎断除法，耳（下）腺截除法，顎下腺，舌下リーム切離法，舌下生合の截離法，痰包施術，截舌法，懸壅垂除截，扁桃腺除截，唾津瘻手術，歯齦瘍手術，抜歯手術。4巻は94-158章で40章省略。内容：上眼瞼上腫手術，瞼内腫手術，眼窩中腫瘍手術，睫毛倒生，涙腫手術，涙腺瘻手術，涙丘手術，斜視眼手術，結膜截割並に截除法，眼中革習（翼状片）手術，眼前房穿貫術，全眼水腫手術，角膜臍列屈手術，灰白内障（白内障）眼針法，眼球摘除，頸腫手術，コロッフヘズウェル（甲状腺腫），喉頭截・気管截，胃管（食道）截割，胸腺（乳腺）・腋下手術，胸膿病手術，穿腹術，腸縫。以上，簡略に述べられているが，頭部，特に眼科の項目が多い。腹部内臓，生殖器や四肢切断のほとんどが省略されている。